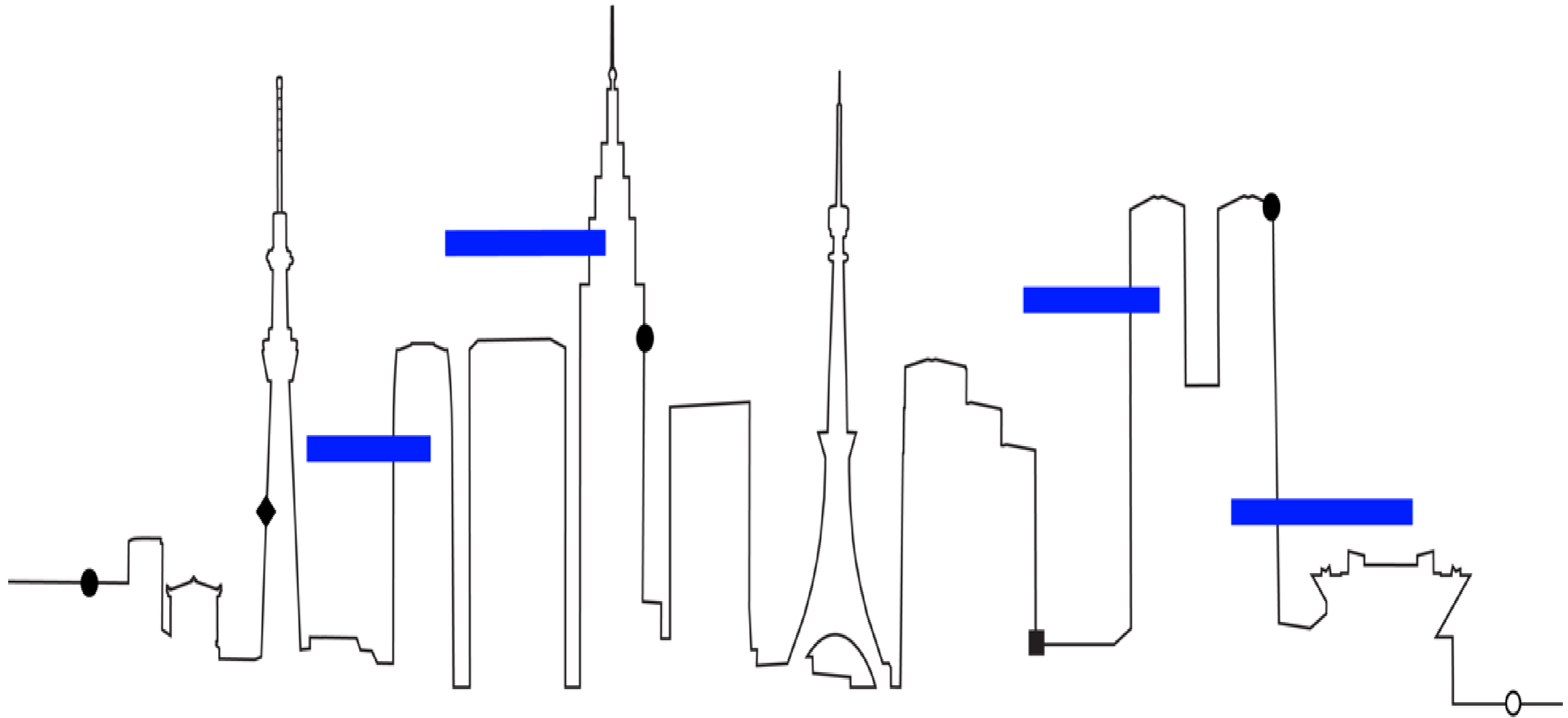


日本 M&A レビュー

2020年 | フィナンシャル・アドバイザー



日本M&Aレビュー

2020年 | フィナンシャル・アドバイザー

日本M&A案件情報概要

日本M&A 歴代2位の24兆円、案件数初の4,000件突破

2020年の日本関連M&A公表案件は24.4兆円と、前年から5.3%増加し、1980年の集計開始以来歴代2位の規模となった。1,000億円超の案件は総額17兆円(25件)に達し、前年から7.4%増加した。全体の案件数は4,289件に達し、初の4,000件突破となった。

ハイテクノロジーが首位

業種別で見ると、最も買収の対象となったのはハイテクノロジーで、前年比12.8%増となる6.6兆円。全体の27.1%を占めて日本市場を牽引した。2位は通信で4.8兆円、3位は小売で3.3兆円となった。

国内案件 6%増加、IN-OUT案件 35%減少

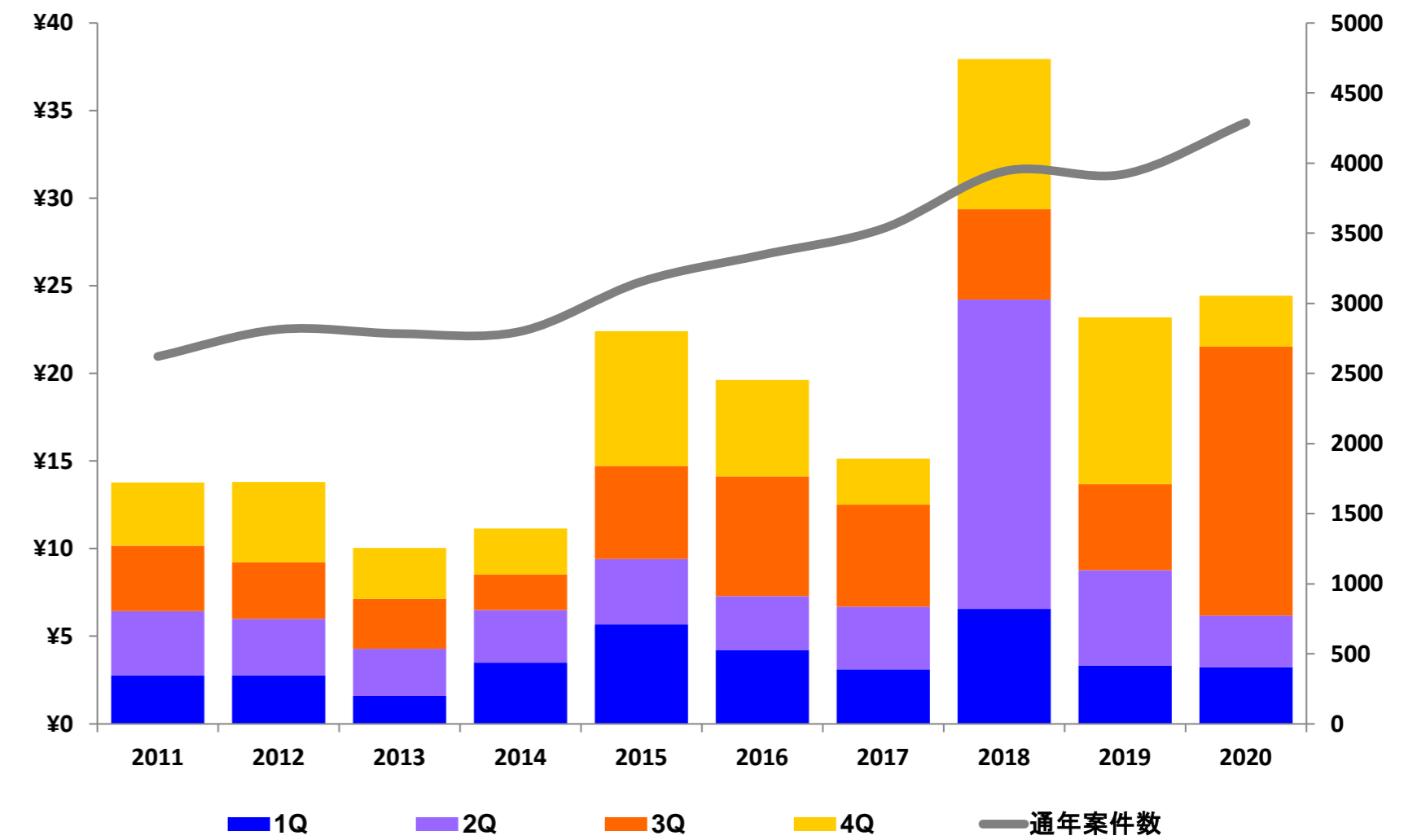
マーケット別で見ると最も活発だったのは国内案件で、前年比6.1%増となる11.3兆円と、2017年以降3年連続で上昇した。これには2020年の最大案件となった日本電信電話(NTT)によるNTTドコモ買収案件(4.3兆円)が寄与し、国内の通信は前年比275倍に飛躍した。また同案件は2020年グローバルの上位案件ランキングで5位となった。10-12月期では、三井不動産による東京ドーム買収(2,665億円)、ニトリによる島忠買収案件(1,997億円)なども発表された。東京ドーム買収案件は国内のレクリエーション&レジャー業界では歴代1位の案件となった。

IN-OUT案件は6.6兆円、前年比では34.8%減少し、2014年以来最低水準となった。買収先の大半は米国で金額では3.4兆円と、前年から10.1%減少した。2020年 IN-OUTの最大案件は、セブン-イレブンによるスピードウェイ買収案件で、同案件は対米の小売関連で過去最大の規模となった。10-12月期ではソニー・ピクチャーズ エンタテインメントの子会社、ファミーション・グローバル・グループによるイレーション買収(1,222億円)や、NECによるAvaloq グループ買収案件(2,345億円)が公表された。後述のAvaloq案件は対欧のソフトウェア関連では歴代2位の規模となった。また海外買収国として最も活発だったのは米国で、日本は3位、中国は8位となった。

トップアドバイザーは野村

2020年日本関連公表案件ベースのM&Aリーグテーブルは、野村が11.9兆円で首位となり、案件数ベースでは三井住友フィナンシャル・グループが124件で3年連続首位となった。

日本M&A ランクバリューの推移 (兆円)

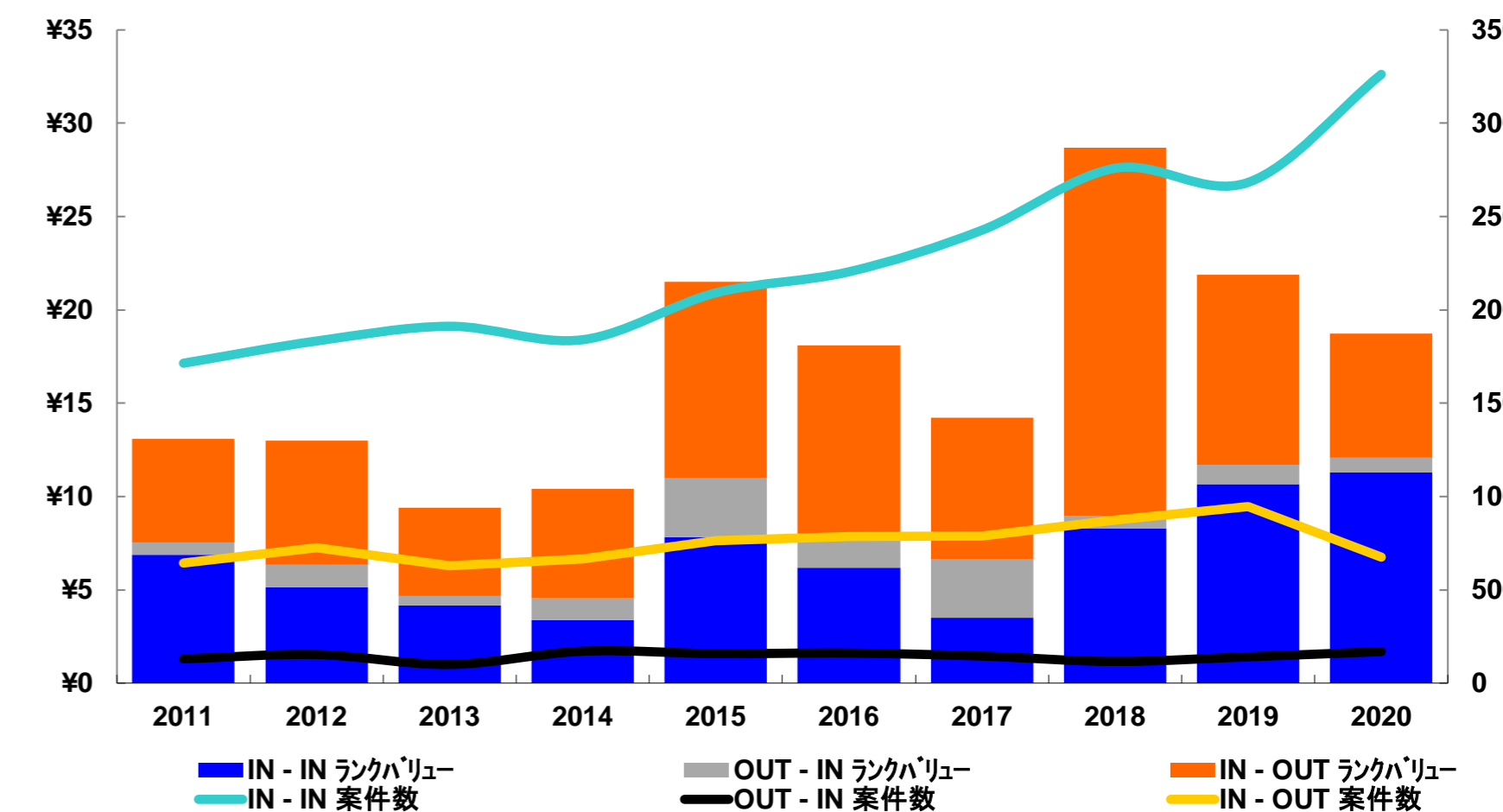


日本企業関連 公表案件 上位10位

ランク日	被買収側企業	被買収側国籍	ランクバリュー (億円)	買収側企業	買収側国籍
2020年9月29日	NTTドコモ	日本	42,544.9	日本電信電話(NTT)	日本
2020年9月13日	アーム	英国	42,456.0	エヌビディア	米国
2020年8月2日	スピードウェイ	米国	22,234.8	セブン-イレブン	日本
2020年8月21日	ニブシー	シンガポール	10,496.5	日本ペイントホールディングス	日本
2020年7月8日	ファミリーマート	日本	5,808.8	リテールインベストメントカンパニー合同会社	日本
2020年1月31日	日立ハイテクノロジーズ	日本	5,311.2	日立製作所	日本
2020年6月22日	Tモバイル US	米国	4,943.0	ドイツテレコム	ドイツ
2020年5月19日	ソニーフィナンシャルホールディングス	日本	3,955.4	ソニー	日本
2020年9月24日	日立キャピタル	日本	2,998.2	三菱UFJリース	日本
2020年4月1日	アイシン・エイ・ダブリュ	日本	2,969.6	アイシン・エイ・ダブリュ	日本

日本M&A マーケット別ランクバリューの構成比 (兆円)

(通年)



Mergers & Acquisitions クライテリア

2020年 | フィナンシャルアドバイザー

プレスリリースに関するお問い合わせ先:

広報担当: 藤森 英明
Tel: +81(3) 6441 1504
E-mail: JapanPR@refinitiv.com

クライテリアに関する御質問、また案件情報のご登録に関するお問い合わせ先:

本橋 馨
Tel: +813 6441 1338
E-mail: kaori.motohashi@refinitiv.com

公表案件ベースのリーグテーブル・ランキングは、リフィニティブが認識している2020年1月1日から2020年12月31日の期間に公表された案件を対象としており、今期および昨年の全てのデータは、日本時間2021年1月2日10時に抽出したものである。ランキングにおける取引金額はすべて日本円で表示され、不動産案件は除外している。

リーグテーブル対象となるのは、合併、買収、市場を介さない自己株式取得、スピンオフ、公開買付による自社株買い、少数株主持ち分(50%以下)の株式取得、及びデット・リストラクチャリング案件である。

公開買付・合併案件は、その案件が完了した日付をもって有効と見なす。

取引金額のついていない場合も対象案件となり、その場合取引金額は表示されない。

案件に関与したフィナンシャル及びリーガル・アドバイザーは、少数株主やジョイントベンチャーパートナーの代表、案件の一部のみに加わった場合、もしくはリフィニティブが案件の参加者について認識していない場合を除き、フル・リーグテーブル・クレジットが付与される。

関連リーグテーブルは、被買収側、買収側、あるいは最終親会社のいずれかが特定の地域や国籍にある案件が含まれる。相対取引による少数持分取得案件の売り手および売り手の最終親会社の国籍も地域別クレジットが付与される。

リーグテーブル、コメント、チャートはランク日ベースで作成され、案件ステータスが Intended (買収の意思表示があったもの)、Pending (継続中)、Partially Completed (部分的に完了)、Completed (完了)、Pending Regulatory (関連官公庁承認待ち)、及び Unconditional (無条件) の案件を対象とする。ランク日は案件の取引金額が最初に公表された日と定義する。

ここに掲載の三菱UFJフィナンシャル・グループおよびモルガン・スタンレーのリーグテーブル・クレジットは、日本における合併会社(三菱UFJモルガン・スタンレー証券及びモルガン・スタンレーMUFJ証券)の設立後の状況を反映している。新設合併会社のクレジットはモルガン・スタンレーへ集計されている。日本企業関連のリーグテーブル上では、モルガン・スタンレーは「三菱UFJモルガン・スタンレー」として表示されている。

リフィニティブについて

Refinitiv(リフィニティブ)は世界有数の金融市場データのプロバイダーで、約190カ国で4万社を超える企業・機関にサービスを提供しています。全世界をカバーするデータとインサイト、トレーディング・プラットフォーム、市場データ・インフラストラクチャー、オープン・テクノロジー・プラットフォームを通じて、世界の金融コミュニティを相互に結び付け、発展を支えます。それによりトレーディング、投資、ウェルスマネジメント、規制およびマーケットデータ管理、企業が抱えるリスク、金融犯罪追対策などの分野においてイノベーションをもたらす先駆者としての役割を果たしています。 <https://www.refinitiv.com/ja>

リフィニティブは、本書に関連した、如何なる者による又は如何なる者に対する証の売り買いに関し、責任・義務を負いません。本書に表示されるグラフ又は図の複製を希望される場合、藤森英明 (JapanPR@refinitiv.com) 又は media.support@refinitiv.com までお問い合わせ下さい。

リフィニティブは本書で提供される情報が、発行時点において正確であり、最新のものであることを確保するよう合理的な努力をしていますが、リフィニティブ又はリフィニティブの第三者コンテンツ・プロバイダーも、本書に含まれる情報の誤謬、不正確又は遅延、或いはそれらに依拠してなされた行為についても、何らの責任も負うものではなく、また、第三者コンテンツ・プロバイダーの如何なる見解又は意見を是認するものではありません。法律により認められる限度において、リフィニティブは明示又は黙示を問わず、提供されたコンテンツの正確性又は完全性、或いは如何なる目的における目的適合性に関する保証をすべて明示的に排除します。本コンテンツを取引又は売買を行う際意思決定の目的で使用することは適切ではありません。本コンテンツは投資助言となる投資、税金、法律等のいかなる助言も提供しません。また、証券の売り買い等を含む、特定の金融の個別銘柄、金融投資あるいは金融商品に関するいかなる勧告もしません。

